

数独を解く

小嶋祥三

購読している新聞の土曜版には数独の問題がある（数独については皆さんご存知だと思うので、解説しない）。時折、電車内で数独を解いている人を見かける。亡くなった父が90歳位の時だったろうか、アタマの老化防止に数独を勧めてみた。離れて暮らしていたのでよく分らないが、父が数独を楽しんでいるようには見えなかった。どの程度老化防止の効果があるか分らないが、わたしも毎週新聞に載っている数独を解いている。星の数（3-5）で難易度を表している。上の図1は星5つの難問である。しかし、数独の作者によると問題により得手、不得手があるようだ。したがって、この星5つの問題がわたしにとって最も難しいレベルの問題かは分らない。どのようにして解いたか振り返ってみる。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
a				4					6
b	2		7			3			
c		5			1			8	
d		8				5			3
e			4				2		
f	1			6				9	
g		2			9			1	
h				7			4		9
i	8					6			

図1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
a			8	4					6
b	2		7	8	6	3			
c		5			1			8	
d		8				5			3
e			4				2		
f	1			6				9	
g	47	2			9			1	
h			1	7			4		9
i	8	74	9	1		6			

図2

る式に9つすべての区域で1の場所が決まった。その後、多少アタマをひねることもあったが、最終的にすべてが埋まった。

わたしは先ず1から順に一つの数字のみが埋まる場所を探す。Ebが6、Caが8、その結果Dbが8である。それを下の図2に示す。これらの場所以外はなかったと思う。

この段階になると解の手掛かりを求めて数字を眺めることになる。これも1から順にやることが多い。その結果、1はBa、Bbのいずれかにはいる。それ故、Ch、Ciのいずれかかは1である、などが分かる。しかし、有効な手がかりがなかなか見つからない。

そのうちに、Cの列とhの行に4と7があることに気づいた。Ag、Biは一方が4なら他方は7がはいる。それを発見すると、Ciが9、Chが1であることが分かる。そうなれば、Diも1となり（図2）、後は芋づ